



私の通訳失敗談——漢字が読めない編

関川富士子
aiic⁽¹⁾ 会議通訳者

「関川さんは帰国子女ですか」
「はい、そうです」
「それでは、バイリンガルなのですね。羨ましいですね」
「いいえ、私はバイリンガルではありません」
「???'」

確かに私は帰国子女です。でも、胸を張って「バイリンガルです」とはいえません。つまり、日本語もドイツ語も100パーセント完璧とはいえないのです。そういう意味では「母国語も外国語も中途半端な帰国子女」というイメージには完璧にマッチしていますけれども、「二ヶ国語に堪能なバイリンガル」というのは、ちょっと違うかな、と思うのです。もちろん、私より日本語がグチャグチャの日本の方もいらっしゃれば、ドイツ語がメチャクチャなドイツの方もいらっしゃいますし、そういう意味では「バイリンガル」かもしれませんけれども、でも、ちょっと違うかな、と思うのです。

しかし、「日本語のできない帰国子女」のイメージなら、完璧に満たしています。

たとえば、アクセントがダメです。

小学校6年生のときに書いた作文『自由とは何か』がとても誉められ、教壇に立って音読するようにいわれた私はタイトルを読み上げました。「ジュウとは何か」。

つまり、聞いている級友たちには「十とは何か」としか聞き取れず、皆「？」となっていました。

あるいは、同じく6年生のときになぜか放送委員なるものをやっていて、給食の時間に童話を音読していたとき。「ウリンコたちはお薩を食べました」と読み上げたら、学校中から「え〜」という声が響いてきたのです。そう、私のアクセントでは「お薩」(サツマイモ)ではなくて「お札」に聞こえてしまったのです。

漢字の読み違いも枚挙の暇がありません。学生時代のイト建て(一戸建て)、ブンチン演習(文献演習)、メイシュウ令状(召集令状)、秋のシチクサ(質草のように聞こえますが、七草のこと)に始まって、会議通訳者としてデビューした後もショウに(将に)、ケンアク感(嫌悪感)、公定ホゴウ(公定歩合)等々教え上げたら切りがありません。

公定歩合の場合などは、耳に「コウテイブアイ」と入ってくると、口から Leitzins と出すのに、反対に耳から Leitzins と入ってくると、口は「コウテイホゴウ」と言っているのです。目でみた「公定歩合」と耳から入る「コウテイブアイ」がまったく繋がらず、日本語では Leitzins のことを、漢字は分からないながらも「コウテイブアイ」という場合と、辞書に掲載されているように「コウテイホゴ」という場合があるのだ、と勝手に思っていたのです。

1. Association Internationale des Interprètes de Conférence: www.aiic.net

でも、漢字の読み違いは、実は日本で生まれ育って小学校から大学まで通った人もなさいますね。たとえば、日本人ブースメートがイジュウ(居住)、ダンコン(団塊)、スクツ(巣窟)というのを聞いて、なんとなくホッとするのは、私だけでしょうか。